

むすびに

令和2年7月4日、人吉球磨地域は新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中で、球磨川の氾濫による豪雨災害が発生し、未曾有の被害を受けました。これまでの経験では推し量ることのできないものでありました。

今回の災害において、被災されました方々にお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々に対しご冥福をお祈り申し上げます。

また、危険を顧みず住民の生命を守るため、避難警戒や救助活動等の任務に尽くされ、身の危険にさらされながらも活動いただいた職員に対し、心から慰労と感謝を申し上げます。

当消防本部も、本部庁舎と球磨村にある西分署庁舎の施設設備と多数の車両に甚大な被害を受け業務遂行も困難な状況の中、緊急消防援助隊と県下の消防本部の応援を長期にわたりいただきました。当本部には、宮崎県大隊、佐賀県大隊、福岡県大隊、山口県大隊と県内の消防本部からご支援をいただきましたことは、我々消防はもとより、地域住民にとりましてもいかに心強かったか知れません。

さて、この記録誌は、人吉下球磨消防の活動を中心としたもので、線状降水帯による集中豪雨と球磨川の氾濫による急激な増水の中での現場活動をとおして、それぞれの体験や想いを綴ったものであります。そして身の危険を感じながらも、未曾有の大水害に立ち向かった消防職員の使命感と献身的な救助活動を後世に語り継ぐための記録となっております。

今回の「令和2年7月豪雨災害」の教訓を未来に生かし、地域住民への早期避難を促し、一人の命も失くさないための防災教育の一助になれば幸いです。

最後に、人吉球磨地域の復旧復興は今始まったところでこれからですが、我々消防は地域住民の安心・安全を守るために職員一丸となって職務に精励していく覚悟でございます。当消防本部に対しまして各関係機関からいただきました物心両面にわたるご支援とご協力に対し深く感謝とお礼を申し上げます、結びの言葉とさせていただきます。

令和3年3月

人吉下球磨消防組合消防本部
消防次長兼総務課長 豊永 浩



地域住民の安全・安心のために



職員一丸となり頑張ります

編集後記

巻頭の消防長のあいさつにあるとおり、当消防組合が発足以来、最も甚大な被害をもたらした「令和2年7月豪雨」。この災害における当消防組合の活動を記録誌として取りまとめ、この活動記録誌が少しでも、後世に役立っていただければとの熱い思いで作成に取り掛かりました。

編集にあたり、各関係機関の皆様より貴重な画像データの提供、公開されている情報や資料など、数多く参考にさせていただきました。厚く御礼申し上げます。

また、関係者の皆様からご寄稿いただきました手記や画像を登載させていただきました。ご協力誠にありがとうございました。

今回の活動記録誌編集については、当消防組合職員にて行い、ページレイアウト構成まで素人の編集員が行っているため読みづらい箇所や、誤字脱字等が散見されますことをお詫び申し上げますとともに、ご容赦願いたいと存じます。

また、本文中に記載されています統計上の数値は確定値ではないものもございます。職員が執筆した活動事案、手記等については個人の記憶に基づく記載となっており、記憶違い等で事実と異なる記載もあり得ることもご了承いただきたいと思います。

今回の災害とその対応で、この活動記録誌に取り上げきれなかったものも数多くあると承知しておりますが、一読された方が一文でも記憶にとどめ、「貴重な経験を後世に伝える」ことへの一助となり、これからの地域防災の発展に寄与できれば幸いです。

令和3年3月 編集員一同

令和3年4月発行

人吉下球磨消防組合消防本部 〒868-0083 熊本県人吉市下林町1番地

TEL : 0966-22-5241 FAX : 0966-22-5240

編集 活動記録誌プロジェクトチーム

尾方鉄也 岩本靖則 西 隆浩 菖蒲 賢

内布巳年 谷川正晃 大倉彩也夏

森田好起 江崎享臣 前田敬之

澁谷将人 小林 諭 宮原瞬一 福田侑城

印刷 町田印刷



※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



Hitoyoshi
Shimokuma
Fire Dept.